

学校給食向けに栽培

ドローンでキャベツの害虫防除

2020年2月3日(月)

大津市の農事組合法人農～夢せきのつのキャベツのほ場1ヘクタールで、ドローンを用いて害虫防除薬を散布しました。同ほ場のキャベツは、市内の学校給食への出荷を予定しています。

南宮農経済センターの田中章吾センター長は、「ドローンでのキャベツの病害虫防除薬散布は、登録農薬が少なく全国的にもまだあ



関津の農～夢せきのつのキャベツのほ場で、ドローンを用いた害虫防除薬の散布を実施しました。

まり行われていません。しかし、生産者の作業を少しでも省力化し軽減したいと、当JAでは積極的にドローンの活用を模索・実践している」と話しています。

「ドローンの活用は、生産者から期待され要望も多い。高齢化や担い手不足に悩む農家が多い現在、作業負担を軽減できるドローンは強い味方となる。今後、水稻・麦・大豆だけの利用ではなく、園芸品目への活用にも積極的に取り組み、安全飛行を第一にドローンを活躍させ、生産者に喜んでもらいたい」と田中センター長。

当JA 大津地区は、JA 自己改革の基本目標「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」の中で、キャベツを園芸戦略5品目（キャベツ、玉ねぎ、じゃがいも、人参、ブロッコリー）の1つとして取り組んでおり、学校給食向けにも作付けに取り組んでいます。